



最近の鹿島港の動向について

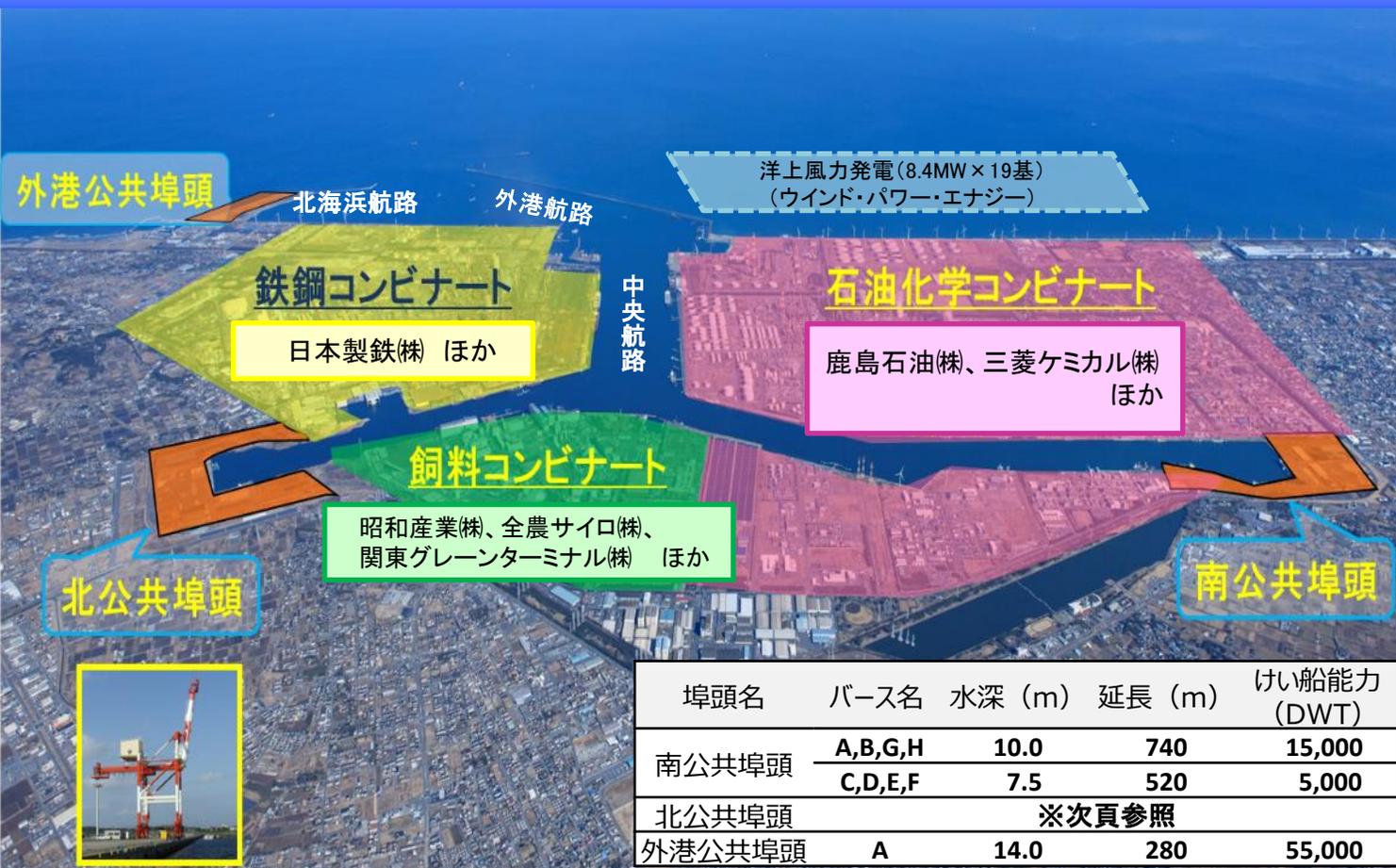


令和4年3月22日（火）

茨城県土木部港湾振興監

青山 紘悦

1. 鹿島港の概要 ~ 鹿島臨海工業地帯の海上輸送基地 ~



<最近のトピック>

- 令和2年は、外航航路の寄港率向上や、京浜エリアの混雑を懸念した荷主による利用港シフト等により、コンテナ取扱量が増加。
(18,957TEU<前年比22%増)
- 令和2年9月2日に、鹿島港・秋田港・能代港・北九州港の4港が海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾（基地港湾）として指定。
鹿島港では、令和5年末までに岸壁整備などを進める予定。
- 鹿島港カーボンニュートラルポート (CNP) 形成計画を今年度内に策定予定。



コンテナ貨物の荷役風景



洋上風力発電の基地となる港湾の指定



CNP形成計画作成WGの様子

2. コンテナターミナル(北公共埠頭)の概要



ガントリークレーン
・荷役能力: 約45本/時間
・アウトリーチ: 8~9列



コンテナヤード
(約1,500TEU蔵置可能)



リーファークンテナ
(約40本蔵置可能)



危険物コンテナ蔵置可能
(指定数量の200倍)

E岸壁
・水深: 10m
・延長: 170m
・DWT: 12,000

D岸壁
・水深: 10m
・延長: 170m
・DWT: 10,000

C岸壁
・水深: 10m
・延長: 170m
・DWT: 10,000

3. - (1) 鹿島港及び茨城港の総貨物量

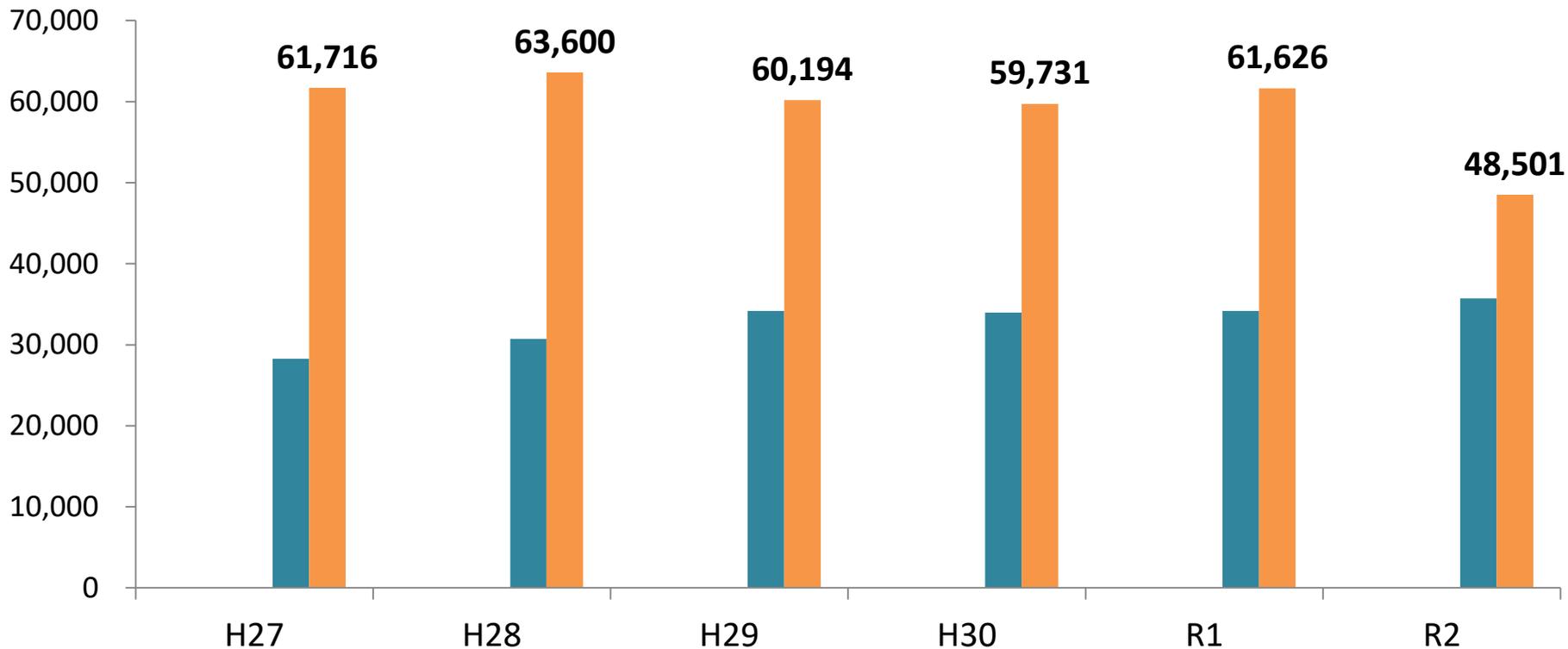
・ 令和2年の総取扱貨物量：48,501千トン（前年比：21%減）

＜要因＞

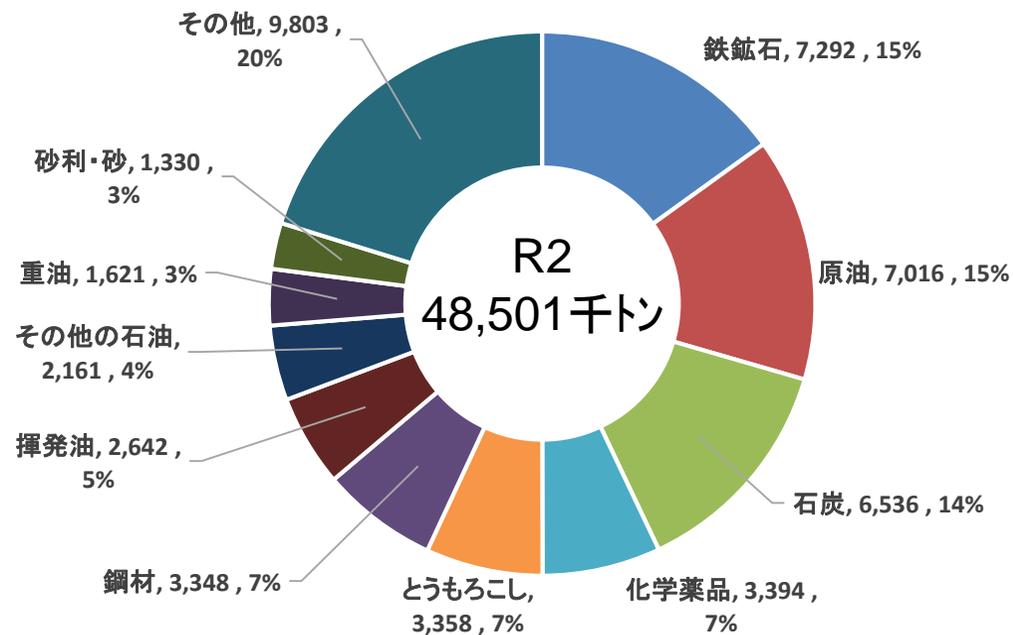
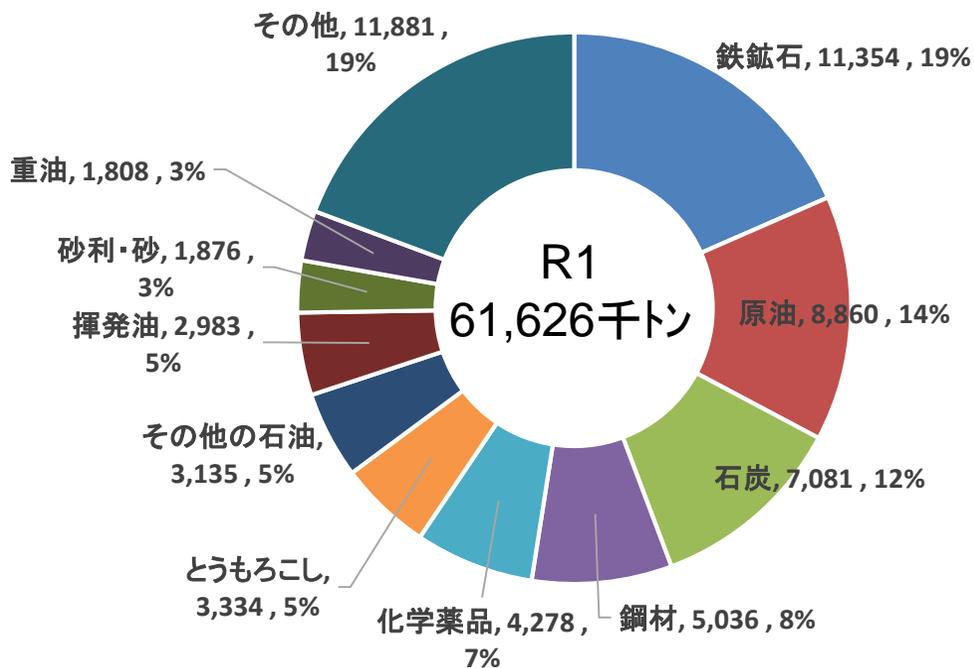
新型コロナウイルス感染症の影響により、鉄鋼や石油化学コンビナートでの生産活動が低調であったため減少。

（単位：千トン）

■ 茨城港 ■ 鹿島港



3. - (2) 鹿島港品種別貨物量【R1～R2】



※数値の単位未満は四捨五入しているため、合計の数値と内訳の数値が一致しない場合があります。

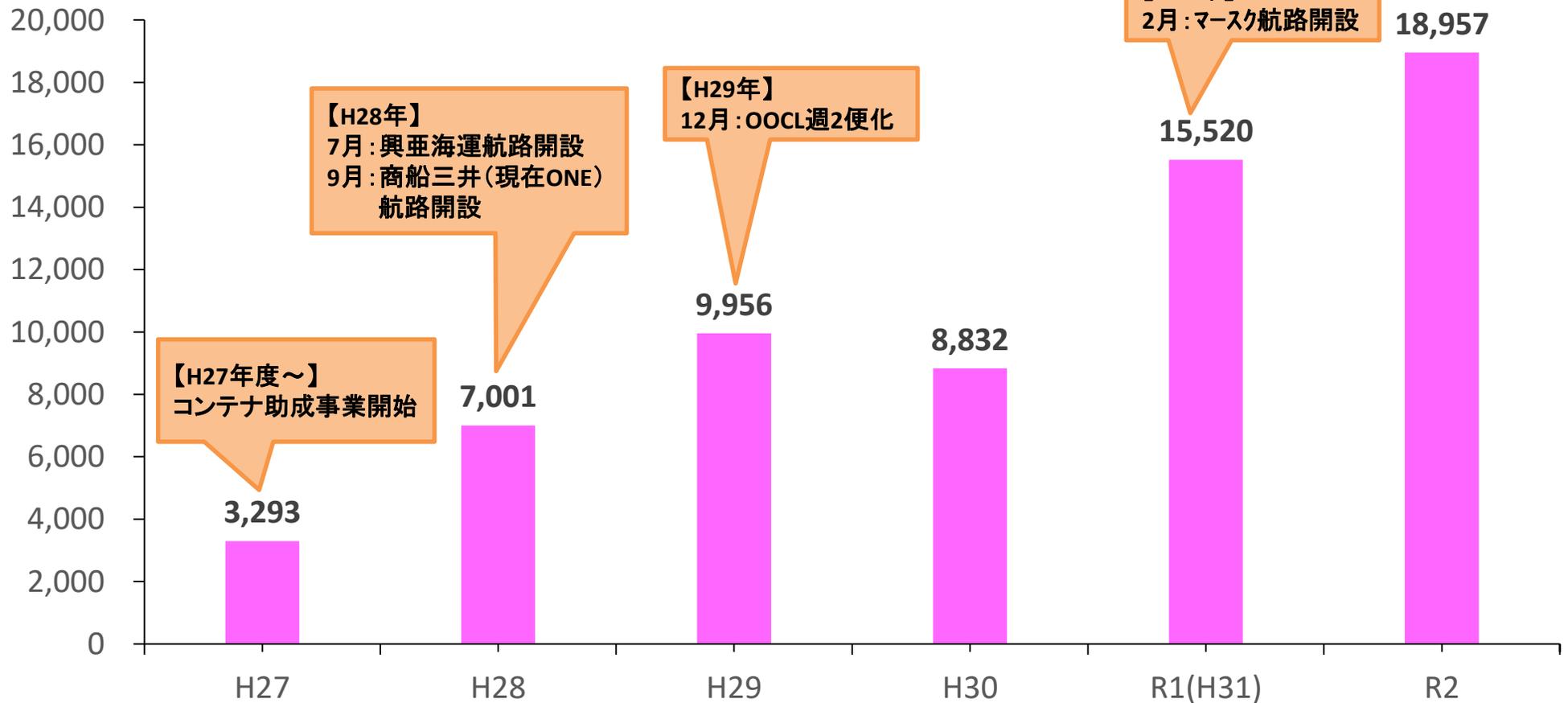
3. -(3)鹿島港のコンテナ貨物量の推移

・ 令和2年のコンテナ貨物取扱量: **18,957TEU** (前年比: 22%増)

<要因>

外航航路の寄港率向上及び京浜港の混雑を避けたい荷主のシフト等により増加

(単位: TEU)



※ 実入・空コンテナの合計(TEU)

4. -(1)鹿島港の海上航路ネットワーク【アジア】

R4.3.1時点



韓国定期コンテナ航路【週1便(火)】

鹿島—釜山—釜山新港—石狩—釧路—仙台—小名浜—**鹿島**

運航船社:興亜ライン

4. -(2)鹿島港の海上航路ネットワーク【国際フィーダー航路】

R4.3.1時点



国際フィーダーサービス【週2便(水曜日・金曜日)】

常陸那珂—**鹿島** ⇔ 東京・横浜→
高雄・香港・シンガポール・ジャカルタ・レムチャバン など
※東京・横浜で積み替え東南アジア航路等世界へ接続可能

○**水曜日**: **井本商運 運航(パブリックフィーダー船)**
→**OOCL、ONE※**の航路に接続可能 ※ONEの接続港については、荷量による(要相談)

○**金曜日**: **OOCL/鈴与海運 運航(OOCL専用船)**
→**OOCL**の航路に接続可能

5. 鹿島港の整備(令和3年度)



【県・海岸】津波・高潮対策(平井地区・日川地区)
 全体延長L=8.9km
 令和3年度 防潮堤(L=450m)

【参考】「ケーソン」とは
 コンクリート製もしくは鋼製の大型の箱のこと。防波堤や岸壁に用いられる。
 (大きさの参考 ※防砂堤の場合)
 幅：9.6m 長さ：15m 高さ：8.5m

【国】防波堤(中央)
 全体延長L=900m R3迄L=797m 概成
 令和3年度 ケーソン製作 N=3函(L=60m)
 据付 N=2函(L=40m)

【国】洋上風力発電基地港整備
 令和3年度 岸壁整備
 地盤改良
 (令和5年度 完成予定)

【県】第二船溜
 令和3年度 埋没浚渫 V=20,000m³

【国】防波堤(南)
 全体延長L=4,800m R3迄L=4,660m 概成
 令和3年度 ケーソン据付 N=2函(L=50m)

【県】防砂堤
 全体延長L=450m R3迄L=240m
 令和3年度 ケーソン製作 N=2函(L=30m)

6. - (1) 茨城県におけるカーボンニュートラルの推進

○ いばらきカーボンニュートラル産業拠点創出プロジェクト

➡ 港湾の存在と関連産業・研究機関の集積という本県のポテンシャルを活かし、茨城臨海部をカーボンニュートラル社会にふさわしいかたちに変貌させる

もたら される 成果

- ①CO₂排出量の大幅削減(2050CN達成への貢献)
- ②新産業の創出(新エネ供給、洋上風力関連産業等)
- ③産業競争力の強化(国際競争力向上、ESG投資受入)
- ④立地競争力の強化(企業立地の更なる拡大)

必要な 取組

再エネ電力や新エネルギー(水素・アンモニア等)のサプライチェーンの構築

エネルギー構造の抜本的転換に必要な技術の開発、設備投資

<プロジェクトの3つの柱>

①機運醸成

- ・促進区域の設定
- ・新エネ需要の見える化
- ・技術動向の把握

②体制構築

- ・官民協議会の設置
- ・相談窓口の設置
- ・専任組織の整備

③支援充実

- ・様々な助成・支援の活用
- ・個別のプロジェクトへの
伴走型支援

6. -(2)カーボンニュートラルポートの形成

- 茨城県では二酸化炭素排出量の約9割が臨海部であることを踏まえ、カーボンニュートラルは臨海部から。
- 茨城県がカーボンニュートラル分野でトップランナーとなること目指し、茨城港や鹿島港を中心とする港湾地域に「カーボンニュートラルポート(CNP)※」を形成するため、「CNP形成計画ver1」を今年度末に策定予定。
- (※)次世代エネルギー利活用の需要と供給体制を一体的に創出、港湾機能の高度化や臨海部における環境に配慮した産業の集積を図るもの。
- 令和3年8月より臨海部の立地企業等で構成する「CNP形成計画作成WG」で検討中。
- CNP形成計画の「原案」を令和3年9月末に公表。

茨城港CNP形成計画(原案)

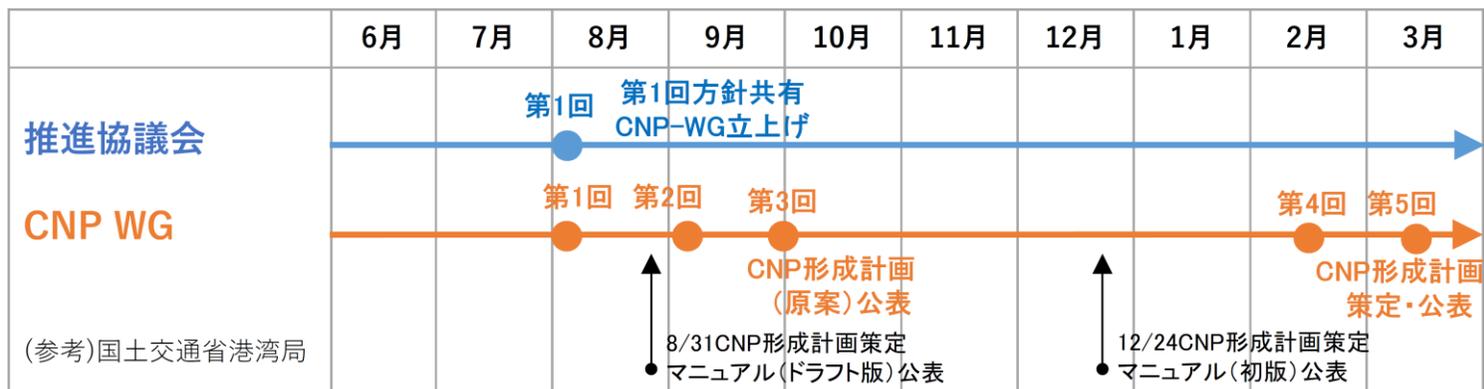
○「カーボンニュートラル・ターミナル、発電拠点」の実現

鹿島港CNP形成計画(原案)

○「カーボンニュートラル・コンビナート」の実現

1. 基本的事項

- (1)基本方針
 - ①次世代エネルギーの供給(輸送、貯蔵等)拠点化
 - ②物流・人流ターミナル、港湾地域に立地する企業の活動の脱炭素化
 - ③再生可能エネルギーの導入促進への貢献
- (2)目標年次 2050年
- (3)対象範囲 茨城港／鹿島港を中心とする港湾地域(陸域、海域)
 - ①港湾ターミナル、②港湾ターミナルに出入りする船舶・車両、③港湾地域に立地する企業



6. - (3) CNP形成のイメージ案(2050年の将来像)

(鹿島港が担う役割・機能)

- 次世代エネルギーを活用したカーボンニュートラル・コンビナート
- 次世代エネルギーによるカーボンニュートラル発電 等



出典:茨城港CNP形成計画(原案)

凡例:

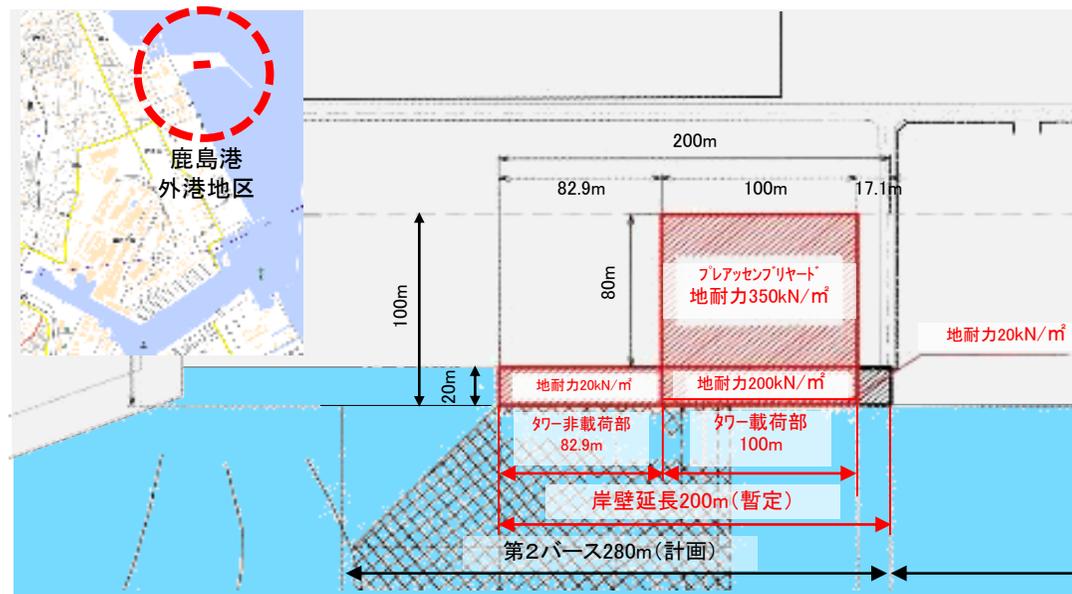
鉄鋼	石油化学	穀物・食料品	エネルギー	風力発電
----	------	--------	-------	------

7. 基地港湾の概要について

<鹿島港と促進区域(銚子沖)の位置図>



<鹿島港外港地区詳細図>



出所: 鹿島港湾・空港整備事務所

- 令和2年9月2日に、国土交通省において、鹿島港、秋田港、能代港、北九州港の4港が、港湾法に基づく洋上風力発電事業の輸送、建設の基地港湾として指定。
- 基地港は令和6年度の供用開始を予定しており、現在は重量物や長尺貨物が取り扱えるよう、岸壁や埠頭用地の改良工事が行われている。
- 洋上風力発電事業の導入促進を通じて、洋上風力発電関連の設備や部材の搬入・積み出しの拠点としての鹿島港の利用促進や、新たな企業の立地など地域経済の活性化、さらには脱炭素社会の実現に向けた貢献も期待される。

【洋上風力発電事業の動き】

- 銚子市沖の洋上風力発電については、令和2年11月から事業者の公募が開始され、令和3年12月に「千葉銚子オフショアウインド」が事業者として選定された。
- 鹿島港内の洋上風力発電については、洋上風力発電事業社の「ウインド・パワー・エナジー」がプロジェクトを進めている。

【基地港湾の利用】

- 事業者の選定後、事業計画を踏まえた上で、基地港の利用方法の調整や、航行安全対策の検討が必要。

8. 鹿島臨海工業地帯の競争力強化に向けた将来ビジョン

鹿島臨海工業地帯の主力産業である基礎素材産業は、海外における大型プラントの相次ぐ建設等によりグローバル競争が激化し、当工業地帯を取り巻く環境も厳しさを増している。さらなる競争力の強化に取り組む必要があるとして、立地企業、有識者、国・県・地元市で構成する「鹿島臨海工業地帯競争力強化検討会議」を設置し、関係者が連携して取り組む方策を取りまとめた「鹿島臨海工業地帯の競争力強化に向けた将来ビジョン」を策定した。

鹿島臨海工業地帯の将来像

地域とともに発展し、将来に渡って日本を支えるスマートコンビナート「KASHIMA」の構築を目指して
生産性向上、スマート保安、脱炭素といったスマート化の積極的な取組を通じて、基礎素材産業を中心とした多様な産業集積拠点、エネルギー・食糧・基礎素材等の供給拠点として国際競争力を高めると同時に、地域とともに発展し、将来に渡って我が国を支える強いKASHIMAの構築

現状

企業の生産体制上の課題

- 更なるグローバル競争の激化や内需の縮小、外需の不確実性等による事業環境の悪化
- 生産施設・設備の高経年化や作業員の高齢化
- 世界的な脱炭素化の流れの加速及び2050年までの温室効果ガス実質ゼロ化の目標

企業の生産活動を支える事業環境上の課題

- 企業からの更なるユーティリティコスト低減や物流機能強化、生活環境の充実等への要望
- 人口減少や少子高齢化を背景とした労働力不足

今後の取組の全体像

競争力の高い生産体制づくりの推進
(競争力のある高付加価値製品の開発・製造、R&D連携、低炭素・脱炭素化への適合、関連産業の集積等)

スマート保安の推進
(ドローン・携帯型電子機器の利用促進、画像診断技術導入、企業間のデータ共有化等)

新産業の創出
(**脱炭素社会を見据えた新エネルギー関連産業の創出等**)

生産基盤の向上
(ユーティリティコストの低減、関連産業の誘致)

物流機能の強化
(**鹿島港の機能強化**、航路の拡充、高速道路・周辺道路の整備)

住みよいまちづくりの推進
(医療・教育の充実、防犯・治安の向上、環境美化の推進、賑わいの創出)

企業間連携、規制緩和、優遇制度の充実

9. 鹿島港インセンティブのご案内

鹿島港コンテナ貨物集荷促進事業

鹿島港のコンテナ貨物の利用促進のため、鹿島港を利用し輸出入を行う荷主に対し、コンテナ貨物の輸出入に伴う経費の一部を助成。

- ① **新規利用支援**（新たな利用、新たに相違するルートからの輸出入貨物）
助成額：**1万円** ～ **最大2万2千円**／コンテナ1本
- ② **継続利用支援**（前年同期比(四半期単位)からの増加輸出入貨物）
助成額：**5千円** ～ **最大1万1千円**／コンテナ1本
※助成上限額：①、②ともに 1ルート **150万円**
- ③ **大口荷主助成**（前年からの継続利用で1ルートあたり200本以上取扱の場合）
助成額：一律**50万円**
- ④ **新規航路開設**（航路開設または増便）
助成額：**2千円**／コンテナ1本
対 象：船会社

【お問い合わせはこちら】

鹿島港振興協会事務局
TEL：0299-92-5551

茨城県土木部港湾課 港湾経営室
TEL：029-301-4536

10. いばらきの港のサービス体制

茨城県、港湾関係企業、港湾振興協会等が連携して、使いやすい港づくりに取り組んでおります。お気軽にお問い合わせください。

- いばらきの港をご利用中の方：相談、要望など
- いばらきの港を利用検討の方：条件確認、見積もり依頼など
- いばらきの港に関心のある方：情報収集など

